

twitter のアイコンによる拡散率を調べる

PM コース 矢吹研究室 1142016 井上 乃祐

1 研究の背景

twitter はコミュニケーションツールのひとつとして利用され、月当たりのアクティブユーザは全世界で 2 億 4100 万人、投稿数は一日あたり約 5 億ツイートされていると言われ、多くの人に使われているソーシャル・ネットワーキング・サービスである [1]。その中にリツイートという機能があり、あるツイートの内容を自分のフォロワーの全員に拡散させる機能である。リツイートされるツイートには、ツイート内容という情報以外にアイコンや、ユーザーの ID などの本質以外の情報も含まれる。私は現在ツイッターを利用して、フォローしているユーザーからリツイートが流れてくることがある。その流れてきたリツイートを見てみると、似たような内容でもリツイートされた回数やお気に入り登録された回数に違いがあることに気づいた。そこで私は自分のプロフィールのアイコンが拡散率に影響があるのではないかと考えた。

2 研究の目的

twitter のアイコンが拡散率に影響があるかを調べ、情報の本質でないアイコン部分が本質に与える影響を調べる。

3 プロジェクトマネジメントとの関連

アイコンでの拡散率の違いが生じるのならば、企業のツイートを受け取る際にステークホルダにより早く情報を伝えることが出来ると言える。

4 研究の方法

4.1 リツイートされたデータを集める方法

自分のタイムラインに流れてきたリツイートのアイコンとリツイート数、お気に入り数、フォロワー数、を自動で保存してくれるツールを用いて、300 個リツイートされたデータを確保する。

その後リツイートされたアイコンを、若い男性、中年の男性、年配の男性、子供の男の子、男複数、若い女性、中年の女性、年配の女性、子供の女の子、女複数、男女複数、初期アイコン、男アニメ、男アニメ複数、女アニメ、女アニメ複数、アニメ・マスコット、マスコット・キャラクター、無機物、自作の絵、動物・ペット、ロゴ・マーク、景色・風景、文字、食べ物の 25 要素でタグ付けする。

それらをエクセルのシートに打ち込み、R を用いて重回帰分析をする。

4.1.1 参考文献

- マイナビニュース 5 大ソーシャルメディアのユーザー数まとめ！ Facebook、Twitter、LINE、Google+、YouTube <http://news.mynavi.jp/news/2014/05/16/324/> [?]
- 会議録論文 [1]
- 卒業論文 [2]
- 書籍 [3] (旧版が研究室にある。LaTeX の入門書を図書館で探して読んでもいいだろう。)

細かい注意：LaTeX の命令の先頭は「 \backslash 」だが、Web などの資料ではそれが「 $\%$ 」になっていることがある。テキストエディタでは、VL ゴシックのような「 \backslash 」と「 $\%$ 」を区別できるフォントを使うといい。

4.2 L^AT_EX 原稿の処理方法

原稿の作成に必要な作業は以下の通りである．

1. TeXLive をインストールする．
2. SumatraPDF をインストールする（Acrobat はファイルをロックするから使いにくい）．
3. 原稿（draft.tex や .bib, .pdf など）を用意する．（ここでは，作業ディレクトリを「C:/work」とする．）
4. コマンドプロンプトで「C: 夔 cd /work 夔」などとして作業ディレクトリに移動する．
5. 「uplatex -shell-escape draft」で L^AT_EX 処理，「dvipdfmx draft」で PDF 作成をするのが基本．参考文献リストが変わったときは「upbibtex draft」を 1 回，参照情報が変わったときは「uplatex -shell-escape draft」を 2 回実行する．build.bat を使ってもよい．途中でエラーで止まったら，「q 夔」や Ctrl-C で終了する．
6. draft.pdf を SumatraPDF で開いて結果を確認する．

5 現在の進捗状況

研究室専用のテンプレートファイル（draft.tex と biblio.bib）を作成した．

6 今後の計画

以下のように研究を進める計画である．

1. L^AT_EX の基本的な使い方を確認する．（まずはこの PDF ファイルを再現できることを確認するといいい．）
2. 研究テーマを決め，研究する．
3. レジюмеとポスターを書き，pull request する．（やり方は先輩に習うこと．）
4. 矢吹がファイルをマージすれば終了．マージされなかったら 3 に戻る．

参考文献

- [1] 矢吹太郎, 増永良文, 森田武史, 石田博之. 知識体系のエリア自動抽出のためのユニット分類手法. 第 5 回データ工学と情報マネジメントに関するフォーラム（DEIM2013）. 電子情報通信学会データ工学研究専門委員会, 日本データベース学会, 情報処理学会データベースシステム研究会, 2013.
- [2] 久保孝樹. チケットを活用するオープンソースソフトウェア開発の実態調査. 卒業論文, 千葉工業大学, 2014.
- [3] 奥村晴彦, 黒木裕介. L^AT_EX2e 美文書作成入門. 技術評論社, 第 6 版, 2013.